

事務事業名 バイオマスタウン構想策定推進事業

政策:02 住みやすい環境と安全なまちづくり

施策:03 自然環境の保全

基本事業:03 バイオマスタウン構想の推進

部名:経済環境部

課名:農林水産課

計画年度	平成19年度 ~ 平成22年度		事業区分	継続	会計区分	普通会計	
1 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2 手段（事務事業の内容、やり方、手順）				
市内山林			山武市バイオマスタウン構想策定経緯 平成20年 3月 山武市バイオマスタウン構想素案作成 策定委員会 5回 平成21年 4月24日 第1回素案検討会 5月20日 第2回素案検討会 6月12日 第3回素案検討会 7月~9月 山武市バイオマスタウン構想(案) 策定委員最終確認 10月13日~11月13日 パブリックコメント 意見0件 11月16日 関東農政局提出 平成22年 2月26日 農林水産省から公表				
3 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）							
バイオマスタウン構想が策定され、木質バイオマス資源のカスケード利用が促進される。							
4 活動指標・成果指標・事業費の推移							
区分	指標名称		単位	20年度実績	21年度実績	22年度当初	25年度目標値
活動指標	森林整備説明会開催数		回	1	2	5	-
活動指標							
成果指標	バイオマスタウン構想推進事業数		事業	3	5	7	-
成果指標							
事業費			千円	7,420	839	283	
うち一般財源			千円	1,413	839	283	
5 目的妥当性							
法定受託事業である（根拠法令） 妥当である 妥当性が低い			バイオマス資源を有効に活用するためマテリアル利用からエネルギー利用を推進する計画を策定を行った。				
6 上位の基本事業への貢献度							
貢献度大きい（理由） 貢献度ふつう（理由） 貢献度小さい（理由） 基礎的事務事業			資源循環を進めることで、二酸化炭素排出量削減の実施など環境負荷の少ない社会を構築するためにも必要と考えられる。				
7 対象や意図の妥当性、費用対効果の検討							
対象や意図を見直し、費用対効果を上げることができる 対象や意図の見直しはできない その他			山武市におけるバイオマス利用、新エネルギー利用の指針となる構想を策定し、その実現を目指すことから、山武市全域を対象とすることが適当であると考えられるため。				
8 有効性（成果状況）							
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない			バイオマスタウン構想が策定され、バイオマス事業を推進する方向性が示された。				
9 有効性（成果向上余地）							
成果向上余地・大 成果向上余地・中 成果向上余地・小・無し							
10 事業の再編成							
類似の事業があり、再編成できる 類似の事業はあるが、再編成できない 類似の事業はない			山武市バイオマスタウン構想策定及び山武市地域新エネルギービジョンの策定を同時に行った。				
11 効率性（コスト削減の方法）							
ある ない			ビジョン策定までの期間においては大部分が補助事業となっており、一般財源は少なく、コスト削減が困難である。				